

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-500	24-059	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b> The relationship between alcohol consumption and outcomes after gastrointestinal surgery: a systematic review and meta-analysis アルコール摂取と消化器手術後の転帰との関連：系統的レビューとメタ分析		
<b>執筆者</b> Angus R, Leow TW, Humes D, Adiamah A.		
<b>掲載誌</b> Alcohol Alcohol. 2025 Jan 19;60(2):agaf002. doi: 10.1093/alcalc/agaf002.		
キーワード	PMID	
消化器外科手術、術後経過、アルコール摂取	39905807	
<b>要 旨</b> <p><b>背景：</b>アルコール乱用は消化器疾患のリスクを増加させ、消化器手術が必要になる可能性があるが、アルコール摂取と消化器系手術後の転帰を評価するレビューは見当たらない。そこで本研究は、術前のアルコール摂取と消化器手術後の合併症との関連を明らかにすることを目的としている。</p> <p><b>方法：</b>MEDLINE、EMBASE、および Cochrane データベースを使用し、「有害飲酒」「アルコール乱用」および「消化器手術」「腹部手術」および「術後アウトカム」「合併症」「死亡率」を検索用語としてアルコール摂取と術後消化器合併症に関する研究を検索した。胃腸手術を受けている成人のアルコール摂取量について報告している原著論文を分析対象とした。高アルコール摂取の基準は「アルコール摂取量 14 単位以上/週」とした。主要なアウトカムは 30 日死亡リスクであり、副次的なアウトカムには術後 30 日以内の手術部位感染、吻合部漏出リスクのオッズ比 (OR) と 95%信頼区間 (CI) について、ランダム効果モデルを使用して推定した。</p> <p><b>結果：</b>検索した 3,601 件の研究のうち、166 件を評価し 26 件が適格基準を満たし、13 件がメタ分析に含められた。メタ分析における総患者数は 686,181 人で 20,163 人は術前アルコール摂取量が高かった。術前アルコール摂取量の高さは、術後合併症 (30 日死亡率を含む) のリスク増加と関連していた (OR=1.56 ; 95%CI:1.07–2.28)。大腸手術を受けた患者において、高アルコール摂取は吻合部漏出のリスクを著しく増加させ (OR=2.17; 95%CI: 1.74–2.72)、消化器手術を受けた患者において手術部位感染リスクを増加させた (OR=1.32; 95%CI: 1.15–1.53)。</p> <p><b>結論：</b>術前のアルコール摂取は、30 日死亡率、吻合部漏出リスク、手術部位感染リスク増加と関連しており、特に大腸手術後に顕著であった。術前のアルコール摂取量の調整は、消化器手術後の合併症に影響を与える可能性がある。術後の合併症リスク軽減のため、術前スクリーニングと介入プログラムの実施により、術前のアルコール摂取量を減らす必要がある。</p>		